島根県水産技術センター　漁況情報　令和３年11月17日発行

トビウオ通信　（R3第９号）

（本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。）
https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　（TEL 0855-22-1720）

《令和３年夏の漁況を振り返って》

島根県の夏の漁業として代表される、ばいかご漁業、あなごかご漁業、しいら漬け漁業、とびうお漁について、令和３年夏の漁況を振り返ってみます。なお、平年値は過去５年平均（平成28～令和２年）を用いています。

ばいかご漁業　１隻当たり漁獲量　平年を上回る

石見地域のばいかご漁業は小型底びき網漁業の休漁期（6～8月）に、日御碕沖から浜田沖の水深200m前後の海域で操業されています。

今期のばいかご漁業における総漁獲量は99.1トンで平年の1.4倍でした。漁獲の主体であるエッチュウバイ（地方名：白バイ）の漁獲量は89.9トンでした。

今期のエッチュウバイの１隻当たり漁獲量は29.9トンで平年の1.5倍でした。平成10年以降、操業隻数の減少等により漁獲量は増減を繰り返していますが、１隻当たり漁獲量は最高を記録し（図1）、現在のエッチュウバイ資源の状況は良好であると推定されます。

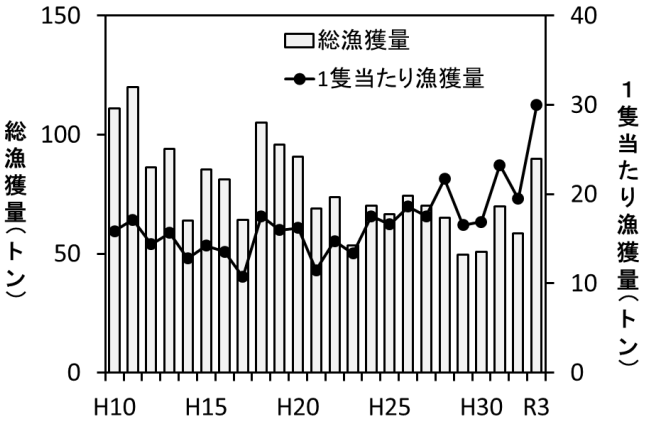

図１　石見地域のばいかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量および１隻当たり漁獲量の推移

あなごかご漁業　１隻当たり漁獲量　平年を上回る

島根県ではアナゴ類の漁獲量が全国トップクラスで、アナゴ類は底びき網漁業によって最も多く漁獲され、次いで、あなごかご漁業で漁獲されます。あなごかご漁業はアナゴの習性を利用して、アナゴの活動が活発になる夜間に餌を入れた漁具を設置して漁獲します。本県では、主に小型底びき網漁業の休漁期（6～8月）に石見地域で行なわれます。

今期の石見地域におけるアナゴ類の水揚げ状況は、総漁獲量が29.2トンで、平年並みでした。１隻当たり漁獲量は14.6トンで平年の2.4倍と平成10年以降で最高となりました（図2）。

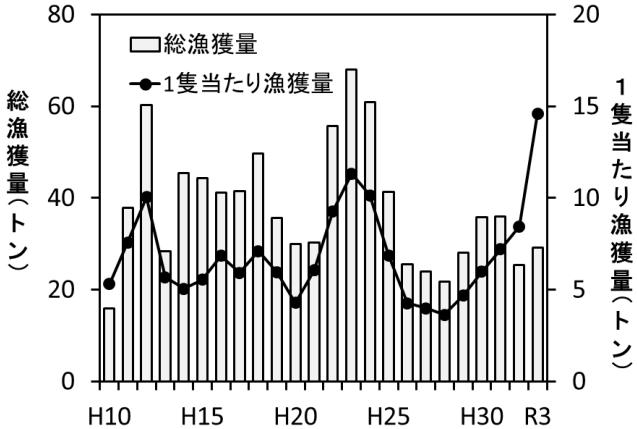

図２　石見地域のあなごかご漁業の総漁獲量および１隻当たり漁獲量の推移

しいら漬け漁業　１隻当たり漁獲量　平年を下回る

シイラ等の回遊魚は物陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。この習性を利用した漁法がしいら漬け漁業で、漬木（つけぎ）と呼ぶ竹の筏を海面に浮かべ、筏の影に集まった魚を網で漁獲するまき網の一種です。本県では、主に小型底びき網漁業の休漁期に石見地域で行われます。今期（6～9 月）の石見地域における水揚げ状況は、総漁獲量が 76.7 トンで、平年の 4 割でした（図 3）。

魚種ごとの漁獲動向をみるとシイラの 1 隻当たり漁獲量は年変動が大きく、多い年では 60 トンを超えています。
今期の 1 隻当たり漁獲量は 17.6 トンで平年の 4 割でした。

一方、ヒラマサの 1 隻当たり漁獲量は平成 14 年に 36. 7 トンの漁獲があった以降、令和元年を除いて数トン程度で推移しています。今期の 1 隻当たり漁獲量は 0.8 トンで平年の 1 割でした（図 4）。

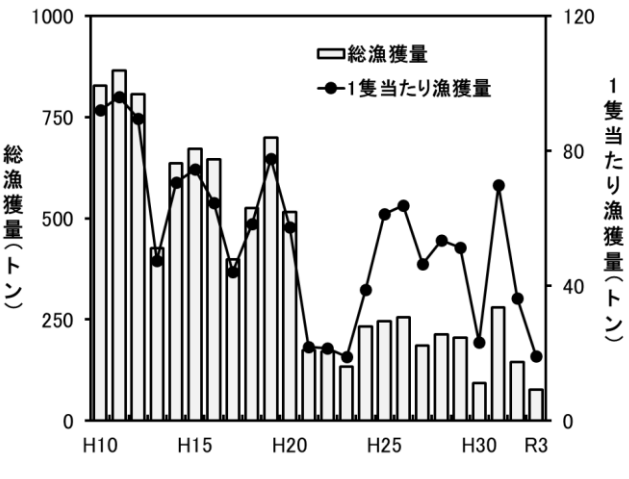

図 3　石見地域のしいら漬け漁業の総漁獲量および 1 隻当たり漁獲量の推移

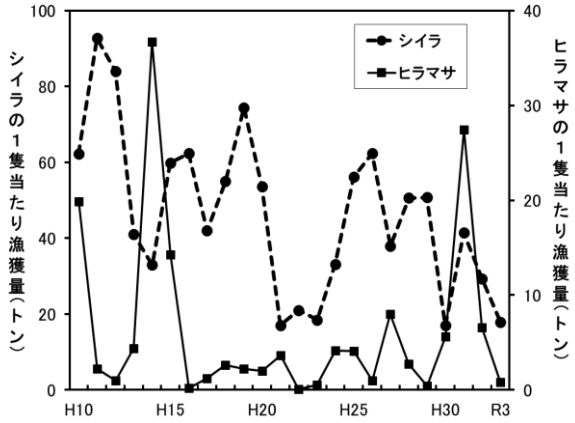

図 4　石見地域のしいら漬け漁業のシイラとヒラマサの 1 隻当たり漁獲量の推移

とびうお漁　漁獲量　平年を下回る

トビウオ類は、初夏になると産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。本県沖合には 5 月から 7 月頃に来遊し、県下全域で刺網、定置網、船びき網、まき網などの様々な漁法で漁獲されます。本県で漁獲されるトビウオ類は、主にツクシトビウオ（地方名：角アゴ、角トビ、大目）とホソトビウオ（地方名：丸アゴ、丸トビ、小目）の 2 種類です。トビウオ類の総漁獲量が 246.0 トンで、平年の 5 割となりました（図 5）。また地区別では、出雲地域が 150.1 トンで平年の 4 割、石見地域が 66.4 トンで平年の 6 割、隠岐地域が 29.6 トンで平年の 4 割の水揚げでした。

主な漁業種類別の漁獲量は、定置網が 203.4 トン、とびうおまき網が 33.7 トン、刺網が 4.7 トン、船びき網が 2.9 トンでした。また、魚種別の漁獲量は、ホソトビウオが 160.2 トン、ツクシトビウオが 88.0 トンで、ホソトビウオが多く漁獲されていました。

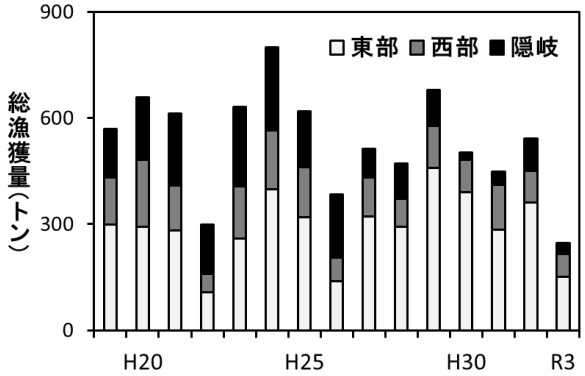

図 5　地区別におけるトビウオ類の漁獲量の推移（5～8 月集計）